



2023. 5. 12. №1432
静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011 Fax054-253-9343
編集・発行＝指導部漁業振興課
<http://www.sogyoren.jf-net.ne.jp/>

1. 第88回大漁祈願祭が挙行される！ — 2019年以来の通常開催 —

本会では、4月13日三島市の三嶋大社において、第88回大漁祈願祭を挙行しました。

この祈願祭は、我が国最初の漁業法が、1901年（明治34年）4月13日に誕生したのを記念し、1933年（昭和8年）に定められた水産デーの主行事として、1934年（昭和9年）から毎年（戦時中の2年を除き）吉例行事として執り行われてきました。

本年は2019年以来4年ぶりに通常開催となり、県内の関係漁業者40名が参列し、本殿前には各漁協等から多くの海の幸が奉納され、禰宜や巫女による舞が奉納された後、本会・県・地区運営委員会及び水産関係団体の代表者が玉ぐしを奉げ、本年の大漁と航海の安全を祈願し、本県水産業の振興発展を願いました。

2. 新入生（第54期生）15人が入学 — 県立漁業高等学園 令和5年度新入生 —

県立漁業高等学園（野田浩之園長）は4月6日に新入生、保護者、漁業関係者、県担当者や学園教職員参加のもと、第54期生の入学式を執り行いました。

入学生徒は15～22歳までの15名で、県内出身者が6名（伊豆の国市、田方郡、三島市、富士宮市、富士市、浜松市から各1名）、県外出身者が6道府県から9名（北海道1名、群馬県3名、埼玉県1名、千葉県1名、長野県1名、大阪府2名）となっています。

式辞で野田園長は、「生徒諸君はこれから漁業後継者として必要な知識と技術、困難に打ち勝つ強い心、強い体力や仲間への思いやりを身に付けていただく。海で働くという夢に向かって、生徒諸君が大いに努力することを期待している」と述べ、続いて藪田国之後援会長（本会会長）、中野弘道焼津市長（下山晃司副市長代読）、板橋威県経済産業部水産・海洋局長が夫々祝辞や激励の言葉を述べられました。

これに応え、入学生を代表し、瀧澤慶樹さん（群馬県出身）が誓いの言葉を述べました。

今後、新入生は全寮制で1年間、次代の県内漁業を担う幹部漁船員を目指し、漁船漁業に必要な専門知識や技術の習得に励んでいくことになります。

3. セーフティーネット申込状況と第4四半期の補填判定結果公表！

令和5年度の漁業経営セーフティーネット構築事業の申し込みが、3月31日をもって締め切られ、申込件数・積立金額が確定しました。

令和4年度の漁業用燃油においては、ロシアによるウクライナ侵攻の影響から、大幅に原油価格が高騰し、年度を通して高額の補填が発動することとなりました。

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

また、養殖用配合飼料においても同様に飼料価格の高騰を受け、年度を通して補填が発動しました。

当該事業への加入は、各種水産関係補助事業の申請においての必須要件であることに加え、昨年度に県が実施した「漁業用燃油価格等高騰緊急対策事業」の補助金を受給するための条件として、セーフティーネット構築事業への加入が必須となったことから、令和5年度の加入者数は昨年より大幅に増加しました。

令和5年度の申込件数・積立金額は以下のとおりです。

＜燃油＞ 申込件数 530件 積立金額 294,460,600円

＜配合飼料＞ 申込件数 62件 積立金額 90,461,500円

また、4月14日には漁業用燃油で令和4年度第4四半期の補填判定結果が公表され、補填単価24,860円/kℓで補填発動が確定し、4月26日には養殖用配合飼料でも補填判定結果が公表され、補填単価31,870円/トで補填発動が確定しました。

4. 令和5年度水産事業概要説明会が開催される

県経済産業部水産・海洋局水産振興課では、4月28日に県庁会議室及びオンライン併用のハイブリット方式により、令和5年度水産事業概要説明会を開催しました。

説明会では、板橋水産・海洋局長より、本県水産業の動向と令和5年度の水産施策の重点事項4項目【①水産業の魅力の増大 ②新たな海洋産業の創造・育成 ③海・川の恵みの持続的な利用の確保 ④資源の維持・増大に向けた調査・研究の推進】についての概要説明が行われました。

引き続き、水産振興課、水産資源課、漁港整備課、水産・海洋技術研究所の各担当者から、所管する個別事業の概要について夫々説明がありました。

なお、5年目を迎える「水産イノベーション推進事業費助成」は昨年に比べ事業費予算が20,000千円以上増額されました。

5. サクラエビ春漁が好調なスタート！ — 4月末 水揚速報値 —

近年、漁獲量の減少から、資源保護を最優先とした自主規制を行いながら漁に臨んでいるサクラエビ漁ですが、4月4日の夜に春漁の初操業を行い、由比港魚市場と大井川港魚市場を合わせて約40tの水揚げとなりました。

4月末時点では、出漁7回で水揚数量約173t、水揚金額約433百万円となり、昨年同時期に比べて水揚数量で約9倍（昨年同期約19t）、水揚金額で約5倍（昨年同期約87百万円）の実績となりました。

本紙は、県内の漁業振興を目的に（公財）静岡県漁業振興基金の協力により発行する定期刊行物です。

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう